

・点線の四角のなかのくずし字をみて、マス目をうめてみましょう。マスの右側にヒントが書かれています。



●用語解説  
 ・名主・年寄・百姓代：村方三役。江戸時代に郡代・代官のもとで、村内の民政をつかさどった、名主(なぬし)・組頭(くみがしら)・年寄(としより)・百姓代(ひやくしよくだい)の総称。名主は村の長として、年貢や夫役のとりまとめをしていた。  
 ・伊奈友之助：伊奈友之助忠富。代官。今回の訴願先。

●内容  
 今回のテキストは文化元年(一八四〇)に廻り田村名主九兵衛等から代官伊奈友之助に出されたものです。  
 江戸時代中期、松平定信が主導した寛政の改革では、飢饉対策として備荒貯穀が奨励されました。村々に穀蔵を設置させ、米・麦・稗・粟などの穀物等を蓄えさせたのです。

集められた稗穀は、廻り田村では名主九兵衛宅に預けられ、飢饉に備え維持・管理が行われました。名主方で預った稗は五斗入りの俵にして倉に保管されました。年々蓄えられると俵は増加し、湿気による腐りや虫害・鼠害などの危機にさらされました。そこで、廻り田村では文化元年、本状をもって新たに石造の穀櫃を造って稗を管理したい旨を代官に願いだしたのです。

●参考文献  
 『東村山市史―通史編 上巻』(東村山市、二〇〇二年)

※☆は句読点の位置です。

多摩郡	地名	村方三役
貯稗置穀	・	年寄
二預り	・	然ル処
鼠	哉与	至極
存間、	櫃	度
、	慈悲	以
候、	聞濟被	